

## 巻頭言

### 日本ウェスレー・メソジスト学会誌 発刊を祝して

鵜飼 勇

1999年9月20日「日本ウェスレー・メソジスト学会」の設立総会が銀座教会で開かれ、日本フリーメソジスト教団、日本基督教団、同教団ホーリネスの群、日本ホーリネス教団、イムマヌエル綜合伝道団、日本ナザレン教団、救世軍、ウェスレアン・ホーリネス教会連合など幅広い教会的背景を持つ牧師、大学教師、神学生、宣教師などが集まった。ウェスレー神学を学ぶ者、英国史・労働運動の専門家、日本メソジスト教会の歴史に関心を寄せる者、女性学を追及する者など専門分野を異にしつつ共通の課題に取り組もうとする人々であった。そこで活動を継続するために「学会」の設立が提案され、集まった22人が発起人になって設立の運びとなったのである。

会則によるとその目的は「ウェスレー・メソジスト研究者の学究的交わりを形成し、その分野における研究の推進に寄与すること」にあり、その為に研究会の開催、機関誌の発行、海外におけるウェスレーならびにメソジスト研究団体との連絡などを事業としている。

続いて開かれた第一回研究会では「ウェスレー研究の動向と展望」（日本ナザレン教団小岩教会牧師・坂本誠氏）、「メソジスト研究の動向と展望」（日本基督教団教師・前橋国際学園・野村誠氏）と題する発題と特別講演「体験的メソジズム——米国合同メソジスト教会の経験を通して」（メソジスト教会教職・江原淳氏）があった。また、本年六月には青山学院大学との共催で現代メソジスト神学の一翼を担うスタンレー・ハワーワス教授（米国デューク大学神学部）を講師に講演会が開かれた。

学会発足第一年の歩みを顧み主の恵みを感謝すると共に、ここに学会誌の

第一号が出版されることは誠に御同慶の至りである。これまでそれぞれの教団・学園・団体などによって進められてきたウェスレー・メソジスト研究の成果が受け継がれ共同の研究がなされると共に、学会誌を通して研鑽の輪が広められる源泉となることを願っている。

筆者の手許に「基督教中興者ジョン・ウェスレ伝」がある。明治廿四年五月に石坂亀次氏がウェスレー永眠一百年を記念して編纂したもので「メソジスト出版舎」印行である。我が国で日本人によるウェスレーに関する文献で最も早く書かれたものの一冊であろう。（教会条例や信仰個条は明治初年にいち早く翻訳出版されていた）その序文に後の日本メソジスト教会監督本多庸一氏が次のように記している。

「夏天雲密に気塞れば人電雷風雨を望む羅馬法王教権を濫用し信仰の道將に滅せんとせし時昊天ルーテルを獨逸に起して電光雷声となし以て教会の空気を清め信仰の自由を回復せり十八世紀の終に当り自由の教会惰眠を貪り典禮信条を禮拜して神人交通の秘奥を忘れ個人精神上の経験を勉めず道德躬行の實際を離れたる時昊天ウエスレを英國に興してメソジスト（守法者）の綽名を負はしめたり亦第二の電光雷鳴なりルーテルの功既に成るウエスレの聲光未た竭きず天下山岳相影響して未愈大ならんと欲す英國の史家マコウレ氏曰く史を編するものにしてウエスレを洩らす者は是史家にあらざるなりと卓言と言うべし」

「メソジスト」（守法者）という綽名を負わされたウェスレーによってメソジズムは形成されたのである。ウェスレーを知らずしてメソジズムを理解することは出来ない。明治初期のメソジスト教会の指導者たちは先ず「ウェスレ伝」を著し、人々をして福音宣教と教会形成の基盤として最初の指導者ジョン・ウェスレーについて正しい理解を示そうとした意図がそこに秘められている。これに次いで「スザンナ・ウェスレー伝」「絵入メソジスト史」「新約筌蹄」（新約聖書注解）「ウェスレー氏説教集」「基督者の完全」など関係資料が翻訳・出版されるようになった。

戦前、日本におけるウェスレーとメソジズムの研究は主にメソジスト派の教会の人々によって進められてきた。「神学評論」（青山学院、関西学院）のウェスレー特輯号・メソジスト更新運動記念号などに当時の牧師たちの研究の成果が発表されている。戦後の東京神学大学神学会編「神学VI（1953・12）」の「ジョン・ウェスレー誕生二百五十年記念特輯」は見落とすことが出来ない。一九五九年渡辺善太氏を会長とする「ウェスレー著作刊行会」が組織され、青山学院教授野呂芳男氏を中心として主要文献を翻訳・出版、1960年には「日本ウェスレー学会」が設立された。その後ウェスレーとメソジズム双書、ウェスレー研究会パンフレット（更新伝道会）、山口徳夫訳「ウェスレー信仰日記」（インマヌエル総合伝道団）などが出版された。近年、特に新しい「ジョン・ウェスレー全集」が米国において出版され、ウェスレー神学再考として「ウェスレーに帰れ」のうねりが世界的に広まっている。十八世紀の英国において果たしたウェスレーの幾多の輝かしい業績を確認すると共に、時代的制約を越えて現代社会に新たに発言することの出来る生きた信仰運動としてメソジズムを受け止める事が我々の研鑽の基本的姿勢でなければならないと思う。

学会書記の藤本満氏が「ウェスレーのうちにある卓越した神学思想が、現代日本の教会に何を提供できるか、またメソジスト諸派をいかに豊かにすることができるか、学会としての今後の掘下げが課題である」といわれるが、学会誌がその使命を果たす器となる事を願うものである。同人の一人として第一号の発行を心から祝い、主の導きを祈り、編集者の労苦に感謝しつつ拙文を記します。

（日本基督教団銀座教会・名誉牧師）